

## 平成 29 年度技術競技大会（農業情報処理）指導講評

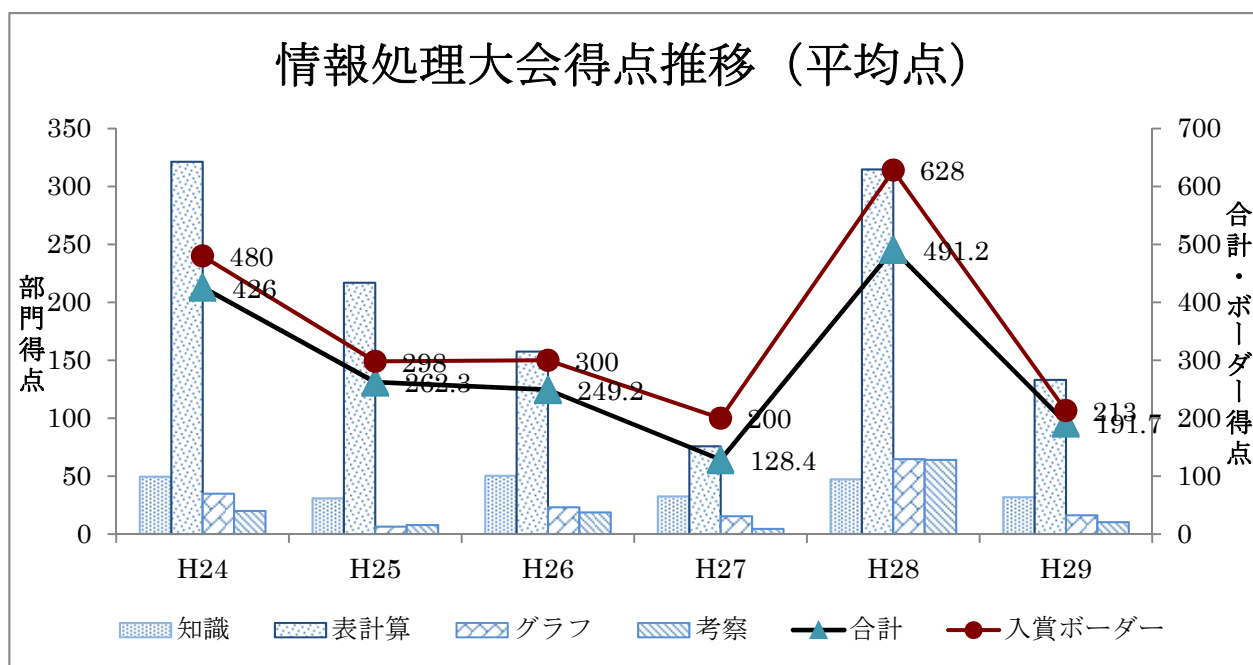
教諭 川島 一秀（群馬県立伊勢崎興陽高等学校）

農業情報処理技術競技大会の審査長を担当して平成 24 年度から 6 年目になります。これが最後の審査長かも知れませんが、これまでの経緯にも触れながら指導講評にします。

以前は、各校のパソコンを会場校に持ち込んでいましたが、24 年度から開催校のパソコンを使って競技するようにしました。同一の PC で競うことになり、純粋にスキルの差を競うことができますが、開催校が有利との意見もありました。そこで、27 年度から東日本デザイン&コンピュータ専門学校にご協力いただき、学外での同一環境の大会を実現しました。

出題範囲については、情報知識問題は「農業情報処理」の教科書(実況出版)の内容から出題していましたが、技能問題については大会で使用する関数の範囲を決めていませんでした。そこで、昨年度から「全商 2 級（技能試験）」を範囲にしました。今大会は、新基準での 2 回目の大会になります。

平成 24 年度から本年度までの得点推移については、次のグラフをご覧ください。



平均点は、27 年度まで 4 年連続で下降していました。下降した理由は、技能以外の思考力等を問う問題を出題したからです。具体的には以下の 3 点を変更点しました。

- ① グラフ作成では、第 2 軸のあるグラフ（右側にも軸目盛のあるグラフ(上図)）を出題する
- ② 入力スピードを問う問題から、一覧表等から必要なデータを抜き出す問題を出題する
- ③ 抜き出しに際し、表の項目名を活用して **VLOOKUP** 関数などを使って効率よく作表する

本年度の平均点は、情報知識問題 31.9 点(昨年比・15.5 点)、表計算 133.1 点(同・181.7 点)、グラフ 16.3 点(同・48.5 点)、考察文書 10.4 点(同・53.7 点)と、特に表計算の問題が厳しい結果となりました。データを抜き出す時は **VLOOKUP** 関数を使えるようにしましょう。また、グラフ問題は 3 題中 2 題で第 2 軸のあるグラフ、もう 1 題も軸反転が必要だったために難しかったかも知れません。考察文書問題は 0 点が 15 人いましたが、そのうちの 3 人が優秀賞に入賞しています。難易度の高い問題の場合は、表計算で得点を稼ぐか、グラフ作成や考察文で得点を稼ぐかの判断が必要になるかも知れません。2 年生の入賞者をみると、2015 年 5 名、2017 年 6 名のように平均点が低い年に多く入賞します。このことは、難易度の高い問題は、技能以外の思考力等が問われることを示唆しています。大会の趣旨から鑑みると、今後も技能以外の思考力等が問われる問題を出題する必要があるようです。